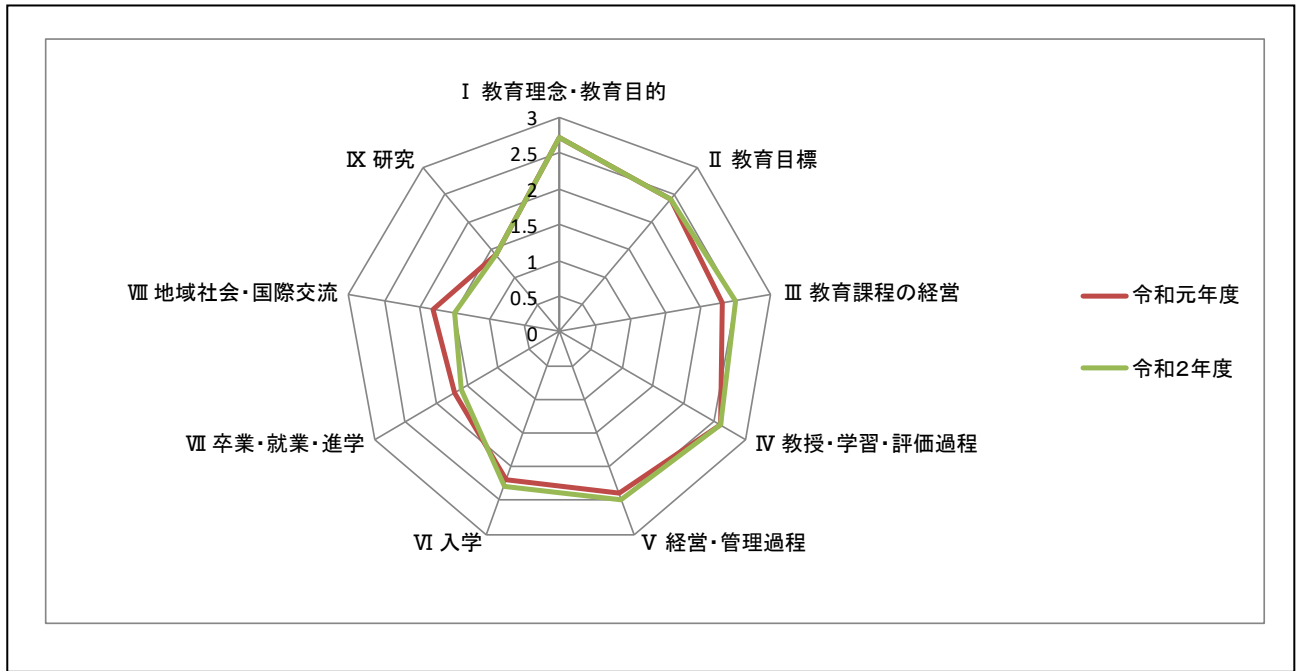


令和2年度 自己点検・自己評価まとめ

和歌山県立なぎ看護学校

【評価方法及び評価点数】

カテゴリーⅠからⅨまでについて、全職員及び学校関係者が評価を実施した。学校の職員は、「当てはまる：3点」、「やや当てはまる：2点」、「当てはまらない：1点」として該当するそれぞれの項目（合計174項目）について評価し平均値を算出した。



【現状及び今後の取組】

- 令和4年度カリキュラム改正の方向性と本校の担う役割に沿った教育理念・目的、教育目標、教育内容となるよう評価見直しを行う。
- 学生や担当講師が科目のねらいや構成、評価方法について評価見直しを行い、より適切な教育ができるシラバスを目指して改善を図る。
- 入学した学生を卒業まで導けるように、学生の個別性を尊重しながら、その教授過程において、学生、教員共に成長できるよう、指導方法の工夫、精神面も含めた学習活動支援に努める。
- 本校への受験希望者は、本校通学圏である新宮東牟婁地域、三重県南部の高校生及び社会人がほとんどを占めている。
令和元年度から、入学生を確保するための学校訪問や地域の方々と交流する取組を行っている。
- 今後も新宮東牟婁地域に位置する看護職を養成する唯一の専門学校としての存在意義を認識し、地域との連携を図り入学生確保に取り組む。
- 卒業生の到達状況の把握、就職先での評価が不十分であるため、今後、卒業生の状況把握を行い、今後の教育理念、教育目標、授業の展開に反映させていく。
- 教員間の相互研鑽システムの構築が課題となっている。
学生の個別指導と実習指導に多くの時間を要することから、授業研究の時間が確保できず、教員相互の意見交換、共通理解が不十分な状況になっていることに要因がある。
教員としてのやりがいのある教育活動に取り組める環境及び体制づくりに努める。
- 今年度、インターネット環境整備として、各教室等授業や会議に使用する部屋の設備整備を行った。
- 人的資源の補強、教授方法の工夫、予算を意識した教育活動など実践可能なことから取り組み、教員を含め職員全員が管理運営の視点を持って、教育活動にあたる必要がある。